

製品名: EKLF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10396**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	KLF1
別名	KLF1; EKLF; Krueppel-like factor 1; Erythroid krueppel-like transcription factor; EKLF
遺伝子 ID	10661.0
SwissProt ID	Q13351
免疫原	抗血清は、ヒト KLF1 の Lys274 の非アセチル化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 231-280

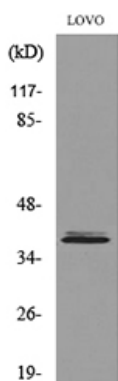
背景

この遺伝子は、成人 β グロビンおよびその他の赤血球系遺伝子の高レベル発現を誘導する造血特異的転写因子をコードしています。

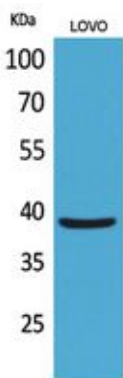
ジンクフィンガータンパク質は、 β ヘモグロビンプロモーターにある DNA 配列 CCACACCCT に結合します。この遺伝子のヘテロ接合性機能喪失変異により、優性 In(Lu)血液表現型が生じます。[RefSeq 提供、2009 年 10 月],機能:赤血球発達の転写制御因子。 β グロビン遺伝子プロモーターの CACCC ボックスに結合し、転写を活性化します。SUMO 化されると、赤血球発達の一般的なスイッチ因子として機能する可能性があります。SUMO 化されると、CDH2/MI2beta との相互作用を促進することにより転写リプレッサーとして機能し、巨核球分化も抑制します。PTM:アセチル化; Lys-274 と Lys-288 の両方がアセチル化される。Lys-274 のアセチル化 (CBP による) は、EKLF の転写活性化活性に影響を与える主要な部位であると考えられる。PTM: 転写活性化ドメインのセリン残基が主にリン酸化される。Thr-23 のリン酸化は転写活性化活性に重要である。PTM: SUMO 化。PIAS1 によって促進される SUMO 化は、巨核球分化の抑制につながる。また、NuRD 抑制複合体の CDH4 サブユニットとの相互作用も促進する。類似性: krueppel C2H2 型ジンクフィンガータンパク質ファミリーに属する。類似性: 3 つの C2H2 型ジンクフィンガーを含む。細胞内局在: 核スペckルで SUMO1 と共局在する。サブユニット: CBP および EP300 と相互作用し、相互作用によって転写活性化活性が増強される。PCAF と相互作用するが、この相互作用は EKLF をアセチル化せず、その転写活性化活性を阻害する。組織特異性: 発現は成人骨髄および胎児肝臓に限定される。骨髄系細胞株およびリンパ系細胞株では発現しない。

研究分野

画像データ



KLF1 抗体を使用した LOVO 細胞溶解液のウェスタン ブロット分析。



EKLF ポリクローナル抗体を使用した LOVO 細胞のウェスタン ブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。